清水物語

巻之六

寂媚の二字

●かぬめりしきもの　ゆさびのうら也

按家清花の子息や

かそやうふきよげなるぶ公達乃。なを紙すぐさ　れりーがるるわらはの。

表　綻　汗衫

うへはけけ面ぶ。ゆぐさるるそあらぐで。かろびがらるるぶ。ぐみけわきて。

茉莉　節ふ

くすぐさるるびなぐくはるそ。ぐる擱のりとよあるぐさけーうてみるる。

女房や

わるさ人のおりーげるる。裏のり帳乃ちるさうちるけて。しるさけるや

女のくくるるるるるや

かるあるひさかるそ。るるるひーしる。うみ牛すの乃ちるし。むぐるのるそ

村濃

しくおりーくるぐる所。板のるそ所り青ぐさうすやりるるる所

板を敷く也

髭　籠

文はるる。えびぐ乃おりーうてめる所。五系れ板りはるさ。

扇の

ぐるるかるよ乃扇。いつるそ也　あるわるはるて。そるるぐみぐげなわ

檜扇のあ方のよ三まいばをぐるるすやるまてはるぐ。

乃ふてとぐすをあづびむすびよ結てたるや。
よくたるひいわで。白きらみれ初そき（檜破子 三寸四方の糸也）ひろ〳〵もあてぐつ〳〵わ
高もあさひわで屋（檜皮屋）はらぬ（麗）ぬ（鮮）ぬ（紋 最 光）ぬ（淡）ぬ。青やうあか
みすのトよ。杉木ぐのあざやうよ。ひもはやうそかうあひもの
（靡）みさなびりたるふもいるれうく
禁秘抄曰（ニク）四面（ニリ）有几帳（木瓜 右文字）惟夏生絹（ハスミ）胡衫（テゴロモ）盈芦雀（ニル）冬杉木形
文のもあうの乃あざやうの所　すのこ乃うらんれわうよ。いるあ（ろんのタ）
所稲このあうさらびつふよ白きわ（猫ノ引綱也）ぐつ（わこの名札也）さくいるれ緒ら（何ニテモヲキリ付テ碇ニスル也）ひつさ
ひなはうくもなめいら　乃のせうれあやめの花人（是ヨリ下茶毛ノ祝也）さうぶのづう（菖蒲ヲ奉ル義人也）
乃あびもの多よをはうぬと。ひれうくいるぐてぐ紙みくん（領巾 裙帯）（襟 上）

（絵巻ヲ献ズ所茶毛ヲ公達ニ給ハル義人とりわけ）
墨絵
ぐらめあどのあらるみ紙（ほよ。なるたいもいぐうあさめりしとわく）
ありよひさつて。ぶたうし。ぱい（拝 よろこ斯也）紙ふもいるあ
赤級（ヒキ）を五節などの時紙（ヒモ）ぬあてあるひむすび結て泥繪（デイエ）
などもてぐの肩ふこ筋はぐるるはる。菖蒲のづうそのあう
細乃多あるで。たるさ結いあや。
五節ノ舞姫糸ときさなるをもわくぬ也
ぬとりのわくハ
江次第十云（ニク）舞姫（ニ）お次第（ニ）糸入先（ス）童女一人持次取（ツギニ）童女入扇（ツヨ）
小忌（ラミ 斎人のさまも也）の男ぐらもいるふ。
もるぐ十一月中卯日新嘗會（ニイナメ）ノ日豊明節會（トヨノアカリ）山あるて扇（ツヨ）
小忌（ラミ）をいるのを五手（ヒ）るや。このるや

直宿人前ゝ渡
位のあれなるとのゐすぐさ　直宿　逆　変義八講の時也　此時の家礼　舞人　五郎のやうにあり　兼姫也

公事根源五郎　丑の日あるべき時上の丑の日を用ゆ。或を下の丑用ゆ。

吾相公異見曰　五郎　兼姫者大賞會の時八五人皆預叙位甚

後年ゝ新賞會時四人又曰択良家子未嫁者置為五郎妻

后宮定ること

宮の五郎出させ給はんずるにつきて

賞を受給はんずるなり。又やうれ方よりもそれらに行ふ。

江次第十五郎の和　童女傳といふ是也

摂家清花の嫡男也　位下の男女院の御子の兼姫出行ずるなり

さてあるべきやうにあの人出仕ぐ。やうにさるべきすべきなり

は息和　はるみ紙ぬいづれも息をといふ也。家にてを中宮

定る也。

女院何とも知れず　中宮定る方ゝ

いつかはあるべきなり。宮のあの房なれ人出るべきなり。女院ちがいなり

女院と兼姫とたがひの兼姫と兄弟也

のんやうにぱらくと成る

定の伯母也

女院　東三条院　諡る也。一の宮院の母后。法興院摂政兼家公

御女　　女院を是中宮の隱居や天子の母也

相つかや

淑景舎　三条の院乃女御中関白道隆公也。母ハ宮内卿定子妹也

清少納言ハ後ハ出方ゝ後ずるなり　栄花物語ゝ

辰の日　小忌　摂のくらゐぬりぐみ紙ぬいぬ

宮の五節兼姫の御兼姫ハ兼姫也

花島余情云　兼姫の事東丑日ハ赤色の唐衣。寅日ハ青

唐衣。辰日ハ摂方衣。赤紙日蔭ぐるまの

女房すぐるねてはもとも上人ゝ　ゆまりてはうくしてぞ

（赤級）

（樫）

（の忠弘）

（ダイビンタロウ）（イフク）

（傳の字）

（外）

（イニ中将とまうす）

（木下の月光憲也）

（五月の月光義人也）

（異本）

（その月五月の）

（辰の月光儀式星で夜ルまで）

（樫）

（ニ）（ニ）

（ニ）

（ニ）

小弓清兵衛そこなひあくにんなるべきまよひ屋人のまわりまをひも
ひとくにとどめ〜心也　是則人のけうづる事あげてひもく
るるふ本文球みてよかるかるべし。
少弓清兵衛事也　在家のさ銭めとの名目　あくにんのさ銭　あくにんの名目
とりひく。堅〜わるさ人のさ銭（けせう）のわざるはげ（所作也）いひるくさふやあん。
在家を　東家の
いはんと。家はうさるどもそ。みとどめて関々ふ。ひけくなるける。
笑止さ〜や　よの和よりや　少弓清兵衛　又清少
うさはういさふ。あるさよりわるくせ房のもとふよりくそ。どかうそ
おはけるるどそさめくるよ。四人げうとつどそくみるくどよくとひ
　　清少　　奉姫四人　在家銭
　　間てこれんこ
えくくむあるいひうくしあまてあよむとちわくうん人のあが
大くまの在家をありくしとや　　家方
わけあるざくむそいてそはくまま〜まくうそわるれよむ人そさ
　　よくよむものそ

さくはうるまくと　　家のくはくさ　　つる清少球げはくーめたくし　　あるて在家あるそし
もあるかいとめてくうねや　　袖うあーそ　　とつくはど出てて
ひわくもはおく〜ゆど
清少球
うすどかわわるよむすどはひもるど。ぼひるはげをゆるふげはる球
　　在家方
　　在家方は山の井を。ゆはるはるでとるはるはうそ浮り
　　むすどはゆるどゆ。日新ふゆるびとはるそ理るるゆ。ひけとはそ。
　　きわどけとふまのこ是を清浄るはるはて。神るまるまちゆるふ

草也

　　居宣武女房
とゆ。家のれもくくいるくくさそけど。　　中宣房の　　家人はくえもいひやくど。ゆどくくと。
みはくるあけてとるゆ。ゆくくう　　その言を　　弁の　　吃の字　　声球
めどあるくくときくゆもくくいひくど。　　どるあるど　　くくうはくくるくど。えもいひはど出びなるくくて。

[illegible]時の貢尾よりわしき
中ノはちかくこちらしてよりわしき。あわのかちをちかのどふなや
まーといへ入めろ人をもの。さいはせーしくわろかまちしけくらてちと
[illegible]。あまちかのぞめくえうあ[illegible]
[illegible]。あまわーてそら[illegible]げあめし。[illegible]めをぞけさのむ[illegible]
むすえ。

菅原氏譜ニ云ク公卿補任ニ菅輔正右中弁淳茂孫。勘解由長官在躬朝臣男母従五位上常陸助菅景行女正暦三年正月十五日。叙従三位時ニ朱雀院御遺賞。式部太夫如元寛弘六年十二月廿四日薨八十五。

そめどの式部郷の宮。乃出和歌[illegible]
いとおかしーあなり。

紹連録ニ村上天皇子為平親王号深殿式部卿宮ト

[illegible]
はその和歌をひろいつさいるもさいぶ。やーて仁安年間ニ[illegible]清原
[illegible]のまーすあくーち。[illegible]めぬ[illegible]
[illegible]

此一節ニ次の段ニ五郎の所ニ[illegible]
[illegible]
東山左府説ニ云ク荷繪細鈔ニ所用之毎級九鋪ニ必用之
白地平緒小忌之外不用之
如記ニ[illegible]平緒節会ニ所用ニ[illegible]鈔ニ[illegible]
大墨出[illegible]用。又[illegible]人ニ[illegible]用ニ紺地平緒ニ[illegible]
の所用ニ叙位除目執筆ニ[illegible]の所ニ紺地[illegible]墨ニ

出家の文

封じて

ばかりみ給はんとて、ぬきのごさ奉るかもいとおかし

又元よりの五郎の文

内裏より五郎のもとに。すぐれたる人もおはしおはせれ。

よもづのものの名くらさいと細し。物忌仕なる

彩色

輪橋

鬢

村濃

氣爽

輪橋

上

雜事

童

五郎の色あつかりしもとかくるまでもとかくるもいとをかし

江次第 殿上四角各卜五節所殿垣下四角各設假切懸自清

涼殿東廂北階下到兼香殿坤角假作長橋云々

紹巴のいはくめいハ出元めの文又地をつかやらき五

位乃ましめりや。

山盛まで物仕なる日蔭の糸をとて五郎の用意する物をとりかくしてやるのいけるもやるいとをかしくふいたりしかあるこそあり

くいたりしみゆ。

柳眉ハ硯短策鞠冠。又追善の所經巻ホすゆる基也。柳まて

ゆくらゆ上のけさ乃末三角まして童半ハ係あり。三条院春の位

よ。吉事よりまみ。追善なの凶事なもて童装用ふゆ。

五郎の時大きなる鬼ハ所ハ脇

又すゆるものを堅ようす。撫ますゆるかあるゆ

童

五郎ようなる人

ものをうつくしく。房どもの前ゆるかるをいとく

五郎ようなる人の。こうもさつけさめ。まてつ房ようも

撥練

五れ物ゆ

ものこ高いとおかし。りるの義人ハ元れかれ。あるもそ

清

江家次第 天平十五年五月癸卯冥群臣於内裏皇太子
親舞五節中丑日張臺試寅日御前試同童女御覧常寧
殿西塗笼龍内帳臺上敷長筵其日可敷舞姫座其前各
立白木灯臺一本舞殿戸下立床子一脚東帳臺坤角
引慢為小歌座北廂塗龍内為大師宿所大歌候同殿東
假屋
蔵事頭行事蔵人立殿東戸下兩闕用床子舞間禁
闕人理髪童女陪従下仕之外不可入頭若蔵人之外不能伺
戸外舞姫次第参入經馬道入舞殿戸

[illegible]

是は樂器のようなものにて
むとやうといふ琵琶のはてをうつ[illegible]
[illegible]
為ようふとやうなど書たるさすがふあづまをばかくなりとのさ
まいせてこそ。あれをめでゝあこそ[illegible]
云名　拾芥云上東門院名物也或説頼九琵琶上東門院今
生涙時之摩之時為面禄焼失畢
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]物云隆圓隆家兄弟也正暦四年[illegible]少僧都。十五不經[illegible]師
寛弘八年四月廿大僧都。長和四年二月卒世七
[illegible]集中二隆圓大僧都中関白御息母馬内侍
或記ふ年の人代僧綱の初。京二代一条院[illegible]。正暦五年。
十一月。隆圓十五歳[illegible]て。真任の僧都とこの[illegible]。是ハ左大臣藤
原道綱[illegible]子也とあり。
隆円のもとに
琴
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
隆円の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

江談云不替是笙名也唐人賣之千石買伊奈加倍之云分
礼波以之為名

この笛の名は僧都のこうんくに。そこにはたらかしたまへる。
ものがたりにはたらかしたまへるこのたびはこれ
はいかにしてかはたらかしたまへるやうにおぼしめすやうのたまはせ
たりけるとかやいとのやうにぬやはらかなるものにこそ
ありけれ。琵琶をそ。弾じたまへりしやう

隆円の
禁中の
云上

牧馬　渭橋　無名

かくて井の御所むまやうまぐ

言上　禁秘抄云言上累代寶物也置中殿御厨子根源様人
不知之掃部頭貞敏渡唐之時所渡琵巴二面其一也
或云言象呑青鉢之水所謂号言象又言上宰相献延

喜帝号言上両説也但妙音院入道付言上説守
師時記曰言上繪様於馬上如琵琶者指琵琶於腰形也

牧馬　拾芥云牧馬与言上一雙名物也

故事談曰　信義　博雅三位息　信明　博雅三位息　両人不知勝劣
初信義弾言上信明弾言上信義
弾牧馬其色雲泥故時人皆云信明超信義言上勝牧馬
井の　江談云井手云琵琶高名者也延喜孫十五宮子愛宮
申人琵琶傳今在宇治宝蔵　拾芥同
いけり　江談云渭橋一為亮又高名琵琶也三条式部卿宝物也
まる和琴なりけるとかやらめ　杉目　語　竈　二　英

水竜　宇多　針ヶ谷　歯二
すいりうにざりうう。うざのはし。ぐざうらはまうらなみたちかわ
関白しかぐやけれよくも。

和琴　あはきごとあづまごと神代よりこの方張弦高
元来琴とは琴にはちがひ弦にかけて弾する也。日本
樂器のかしら也。京商角徵羽は文武の緒といふものなり
歟也。鎮座本記よりあり

杉目　拾芥曰杉目或杉部入嵬褐袋　和琴也
塩竈　拾芥曰兼平宮年九月五日入目録　和琴也
二貫　拾芥入　動物和琴也
水籠　江談云横笛者大水竜小水竜天暦御時宮物琴筒
宇多法皇　江談曰寛平法皇所和琴　拾芥寛平法皇宝重
餘有是名　或説檜作之一条院内裏焼亡時焼亡
釘ヶ谷　拾芥笛部
ふきつ　江談云第二者高名横笛也号朱雀門鬼笛是也
浄蔵上人吹笛涼更朱雀門鬼大恐感之自尓是笛給件
聖人其後次第傳之在入道殿後一条院之御在位之時江
蔵人某召此笛蔵人不知笛名只はやしつ系也紙ヶ
入道殿ゆるゆる彩ふ。歯二てをかくまぐれ。をくこと乃
第二の笛かくとなる。言種紙ヶ
百錦殿の一ふくるふくるふくるふくるふくるふくるふくるふくるふくるふくる言種。張中ふくるふくるふくる

西京抄云納百思代は物在宜陽殿恒例は物納義人所
源氏名家の上手この琴を宜陽殿にまのそばぐるま第一に
名ありし琴なり。細源は宜陽殿昔は糸黒き琴をぞ
是は又別のるや　おや
う乃は中のみなおまへりて。殿上人日ひるも琴笛ふさあそび
退出
らくまでやうるわ。まうかうしをさしつぬり。おりるぶ
徒
外やよみて高聴
弾は出ぬ。とのあさ高ぶあるしだびはらは紙あぐさ
居家の琴笛引ておやの方教あるなれを引ても紙あるもの紙
あるりをとをれて。ちかおのはぞはのふをよのはねを高。白桂
張
まうはあるかをあるをなまわく。ぞとをるはは琴笛。
光
居家の中琴集
源ぞの袖ぬらけくとくへさぞ紙高めぞきまふ。そぞちはひる
側

おのわど。ちろくけざやうのて。やづふみてをぞ紙高そ。あをあぐさ
清少の
ぞあるをめぞきまや。ちろくあをさまを高くをはちをく。なぞかくしう
くんを。そかうをあるばうんり
倡家の琴笛
倡家の琴笛紙云多呼一方海姫おを茅猶抱琴笛半遮面
あけをくくくくあるくあをいを紙きて。くちくあをさ紙。わりあく
中文へ
世房ちの中を
やくあいをくけいをけぐ。やくをや
清少へ
ちくや紙をくをちりをくをちりをくをんあをや
はくあるも。
日向
是も別のるや
れあををくをふ乃。をふちぐへぐ高ぐのをふ。をくをく
中文ちけるもけるや
ぞりをけるやふちいぐ。をぐ人のあるを
多力
れあの乃大輔を中文れ兄弟周家のつまや　系口前ニアリ

館也

廊

右中将泰四位好親号井手少将　系口右二委

詞花集入。あれまとそ日出るあしたのさすやゆふもひ

●わすれもの　ふもしも

人のもとにまかりてやすらひはてゆるほどに。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

南院ら　　不替
をぞいとゝみのもや。ゝゝくあつまりくぱくはさんめひて。ゝゝせゝくく
卒縱　　衣斤
ひゝめくこのゆぞを行はせゝゝぐ。ゝゝみありてゝわつまりくぱぞりく
身　　挑の字ひゝゝゝ　　並くゝゝ高駄也
みぱゝゝゝくゝめひいづゝいゝみつ。ゝゝくゝもゝゝびめゝゝゝいとめ
ゞ高紙。ゝゝ妙のめゝ

最疾　　中老の女房うゞし。赤考男曰命夫女曰妻婢　命者有命爵義也
いとゝくめひけゝゝうゝをゝゝゝゆゞけめゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
結目　　けやゝゝ高也　　背
ざゝゝゝ高紙尺つゞぱ。ゞゝめゝを高紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

走出でまきしを
はりもうちつづし　おもてわさ　薄
長槍　持　鉾　提
ぎびつまこ高もの。すきさぎ。ひさげて。むさ高や。ぎわ。ほわくいわこて
わびうわ。ちくれ。よわ。きんぎのあるわ。そこ。ぬ。よ紙。
姫　制さくきのあるわ
情夢ぎび
いこうぎいすれど。ぬぎすこぎ。ぎいくいぬ。ひろくわこ。
長月廿五日の仲のんけこのぎこは。こ家のけぎ紙。
ぎびつ十二分よいわく。ぎらてのぎこぎ。人おまてきこく。
京へ入こ日ぬ。二条ちぬこれをんあこて。人ぬくあつ
まこて車ぎぬ。おまこあこちここ。
受領　図書の助や　無礼や　受領こを我ぬこれこぎや
ずりやこのこく。なぬげこもの。ひ。ぎこく我ぬぎ。おもひこ
形勢や　人の
あこひよいひ。ぎ高いこわこぎこ。
みすぎ夫人の文ぬ。ひここわく

主
ぬこ。ぬこ。ぬここ。ぬここ。ぬこ。ぬこ。ぬ

見情ある事をしらぬ

●さけをいとさものの

変

まゝ平とるぶふあるてものふ。ぬくれかふちとけるかなぬ。

人のふ結せいをぐ。きてこゝろ。おもふ人のいくあひくあるで事

しる。きておるゆをたらでくいけばかん。そなくいけばかん。

下をまゝ学ゝゝゝ

つひぐあるばかこゝいて。あびぐらこ所ちゝ所あるぐ。げすせ

ちばせばこゝる。ちのばぐゝる。かのとおもふゝ

りゝてゝあそげ。ぐれまるくいひゝるるゝかゝる所。

ばへけるふ人のまへくぐゝるるゝ人のゝおばぐゝるゝ人のゝるおば

いひゝる。ゝゝゝるどゝおばぐぬ。ぐゝ所人ゝかゝるきゝく。

人のゝめゝるるばいふゝかゝいて。人のおゝてものゝゝで

するかとはゝよ。あゝまゝうゝゝとけてゝゝるゝ人。まゝばをいとゝの

ゝあ琴ぬ。心ひゝやゝく。ゝゝゝゝるゝ人のまゝゝくゝく

いゝゝしゝすあゝむゝゝゝるゝゝ。ゝゝゝふあひゝる

●あゝまゝきの

白氏文集樂府云石上磨玉簪玉簪歇成中央折

白氏文集樂府云石上磨玉簪玉簪歇成中央折

ゝ所ゝゝゝゝゝゝゝる。ゝ所和ゝのゝゝゝ。ぬぐゆめてゝゝゝおゝ所ゝう

ゝゝるどゝやゝゝゝむゝゝゝおゝゝゝゝ。ぬぐゆめてゝゝゝおゝ所ゝう

あゝゝる。人のゝゝゝゝぬゝゝゝ事。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝおゝと

ゝゝいひゝ所。ゝゝるぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

賭かるふあぐいそうわすくれて。祈りこうかすのいちそ。
甲こや　ろ　ひ　ろ　ふ　ぐ　ぐ　ぐ

●ちちはきもの

節会。佛名は雪ゆゑにて面のかさなりあり。

元日の節会。白馬節会。踏歌の節会。是は三節会とも

ちの御は光明節会仏名。いはゆる本文の節会也。元日の節会。

但佛名はばけたる。十一月廿四の名をもつべし。

節会なり。ちなべ月わのはものいみもあり。いとをいはしたる

障

ちなものさはりなくて出さて。佛ちりとのりなる人の。

るむまで。やうやうなる。わたびともしたすべきもあり。

かるべきるむとおもひてよびよりつる人のさはりてなと

いひそこねたり。おとこをもえばへ。わるべやうなる

人。ちちもよ寺人にてものつも物ちよこのちうちれいで。

用をばけるべはもたる人のるまてもちにはまもも。

ひて也ずさびしうむ所すはてもへるかちはべん

りてもなりの物にはもたもちはなりなり。

是ちの清サの郭公関よ行しあるとも

月のはちうしのなど

年ちて四五九月は精進ひちる也長海經に若有二善男女

后宮の職也

等修二年三千戒忍脱諸難等一獲二殊勝福利一

ちまふれはすよりごのまへ。ちまのちをちよちはひ

あれくまいぶ面のちめもれ

本尊安置の所也

称名院西説塗籠本帳基のやうにてをく也。文庫にの脈や　和考　この説をのぶるなし

五月の朔日より初めらるべきよしはしばしばうけたまはれども

請ずまつりて　都よりも大切なる所なれば

ひるまでやとりぬきてやしもくと出さつ。なほ兵庫のれくよりのぶ

とやうれづらのわらはくとをあでぶ。まづ出でたまふ

賀茂　去王都北一里山禁在宮号賀茂別雷皇大神宮

うれわらはんぬ。日ごろふるとんの

変革のあらかはぜ　変革職の大変

人もあり。そこにくるのけ

大内裏の朔平門より

外の陣より出でたまふとぞ

のりてゆく。　検校縫殿陣朔平門乾陣

近衛武官兵衆輦車出入内裏者妃限曹司夫人及内

親王限温明殿涼殿女御三位限紅梅殿及

孫王本ト嬪妃　衆輦限紅梅殿

ゆゑ女房らの　車

うちまきて　狩衣　車陣

わかせうらぐ。図もいわばなほ

とふ所りて人わらくさぐなる

河海抄云ノ左近ノ馬場者一条西洞院右近ノ馬場者一条

大宮也今代ニ云北野社南右近ノ馬場ト云

車ぐるまの音や　真弓射

ものゆみのなり。そば

ぐ出ぬぐ。おはすやとく。

神中ノ五月三日の夕方の迎あり。四日の夕方迎あり。結び五日
の夕方に西てづゝ。六日の夕方まつり。七日の夕方射
の迎法会人ガテ持ち。八日の夕方ぞ。褐の渡をぬの中ゆひ
様ゑ引出て。九日の夕方ゆゆ。十日の夕方。九日の
のけ。識の。十日の夕方。十一日の夕方。十二日の
褐の屏風勝ち前さ西ゑ引あ。十三日の夕方。前ゑはさめ。十四日
この西てづゝ。十五日の夕方。十六日の夕方
左迎中ノ。十七日の夕方。十八日の夕方。十九日の夕方
さ西ゑ。ゆゝ。ぬ。ぞ。けや。すぎ。と。て。ぬ。ぞ。ぬ。ぞ。
家の。ゑ。ぬ。出。く。く。ぬ。

高階氏系口云

成忠　助頼　信頼　明頼

左京定ゑ氏法母云内侍ノ兄也

地ゝ。ゑ。ぞ。て。ゑ。む。と。ゑ。ぞ。ゑ。西。ゑ。ぞ。ゑ。ぞ。ゑ。ぞ

奥ゆかしぬや

ばかりてぼらくはさはるる位。ゆゑ〜まよ。あゆみぞかつまと

ふばかりぞ。おまはひらるふ。わらぶぼんのこゝろと沾市よ同〜めさび

墨ぬきれ市ゆそ〜ゆ〜ゆ

さめとうひつる人〜よまぐ〜ふ。市よつけてゆかるる沾ゆんみれ

稲

べ〜ゆ。ねゆよまゆわらとゆいぐ〜ゆ。ゆるまゆのゆうるげゆ〜ね。

訓 將 引ゆ

うれゆうゆ乃家のむすゆめうぐ〜ひさみゆくきて。ゆゆ人〜〜くゆ

一説系統ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

樓

乃ゆ〜〜ぬゆ〜ゆ〜ゆ〜

法師。（是をやしくも）
ほうし。（法師）
のいのちをきめ（邂逅）
ぐ。ほうこ（行あふぐ）
みゆるらむ。（京近く）
きめぐ。（女房達の詞や）
ぼうこ（法師）
をいかうでやま（山）
んやそ。このうら（浦）のさま（様）ぞう。
ようこそやくこそやまめ。そ（系）
どのくりこ（栗）
ぐめて
於芳（おほう）云（いふ）系院（ゐん）一条南大宮東二町（ちやう）侍従（じゆう）寺大臣（おとゝ）為光家（ためみつけ）
清少の詞や
この為光（ためみつ）卿号（ごう）恒徳公（つねのとくこう）
侍従どのやたはーさす
勘物（かんもつ）云（いふ）公信（きんぶ）恒徳公（つねのとくこう）六男（ろくなん）謙徳公（けんとくこう）長徳元年九月十九日
侍従（じゆう）十九同年十月参議（さんぎ）。長保九年三月少納言（しやうなごん）。同年九
月右少将（うしやうしやう）。世三（よさん）二年二月七日。聽禁色（ちやうきんしき）
ぞ。ぎすのこゑきてい（聞）ゐるむこ（婿）うち（内）ぐ（供）ぐ（供）ぐ（供

侍従の詞也　この若まてかたらし也
うはこのんしのり〜所となん。ぢうよみぬ。あ御をりくみ〜るなどわ〜ぬ
あまこで。行綱　行綱　真
ぢうつる人どもけうじわふ。行をいつ〜ろ。そ行こ〜むとの
清安の若也　行綱の詞し異也門
〜こ所。西ぢあるよ〜ろんぜ〜ぢて〜こ〜そ〜ぢいふ〜ぢ。あ見御よ
ありぬ。そ〜ぢ〜ろ〜みぢのやうよ行〜ぢ〜。このつちみぢ〜ーを。屋根のあるこし　助宣
はて〜ぢめんと。ク〜ぢて〜ぢ〜ろ〜ろ〜れ　追つんとふりて人目も西ろ走り来所也　西の家也
ぢ〜ろ〜ぢ西ぢ。ぢ〜ぢを行ぢとおもいつ〜よ。ん〜めを〜しばはて〜ぢ
行也　あ〜ろ也
ぢ。あ〜いんぢ〜ぢて。ぢ〜ぢ〜ぢまぢ〜ぢ〜ぢ〜

侍従ガ

[illegible]

清少ヲ片ヲ

[illegible]

待シ

[illegible]

后宮ノ

[illegible]

早ク

[illegible]

清少ノ

[illegible]

宰相ノ

[illegible]

雷

[illegible]

宰相ノ

[illegible]

多ク

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（下廉）ちさわらびを忘れ。とくせ行ひくもいとゞ行くと
（合点）ゐ。
（清少）ちさとすさびてきさしてゐるも。ときまてゐるせゝ行ば。
いみじうけだかうをかしうもあるかな。（兼諸はしるきこゝろ）
つむとわらせ行。この文ゆゑ行ゝとゝるんおもひ行るものを。
（物の時節）
ものおそろしくのみ行ゝるもよゝのおんせゝ行ゝ。（甚だ侍ゝと云ふ）
（三十一字ヨミ）
まゝ式ゝこゝろもんし行ゝ。いとゞいとものかゝをしゝ。去ゝのゝ
（世界ゝこゝの文をもむかしの文ハ所ゝ）
文をゝみ。あゝてゝ去の絵ゝゝみ。むめのわゝまゝるゝゝよしゝ行ゝむ。
はゝゝゝゝよゝむといゝ行ゝしゝすゝゝゝ（素ゝゝゝゝ）ゝゝゝゝゝゝゝゝ。
おりの文ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ

丁度申ぜで寝所頂戴

[illegible]

[illegible]

題出して女房ら[illegible]

[illegible]

[illegible]

第一の人は面目あんも
第二の人は女房達のこと
第三の人は一番の法門のこと

法華経に十方仏土中唯有一乗法無二亦無三除仏方便説

菓子みあるとうるあるべし。九品蓮臺の中にそ。下ぶとうあるもと。学

て為べしべし。

極樂寺建立願文　又名保延　十方仏土之中西方為宗　九品

蓮臺之中垂下品足

観経に九品の浄土をそ。上品中品下品のかりなり

居ゐあるおひとりなり

むげにおもひうんじまうわ。ひとわろし。

その人をもてそ

居家の方のこと

人をもうびてそ。そなたはうまれぞ。第一

居家の方

人はまことにまことにおもはれもしかるべし。

是より別隠家の方へ　居家の方へ

中納言殿まうしまいらせおはしまし。隠家をいみ

居家

しまはれ給ひそ。あはれそなたをはなしまいらせ

居家の方

わけのうんもそ。そるかまべけまべ。おもひ紙

居家の方

ようあるうるはいとおもひきうるそ。

隠家の方

はるまはるべきのさはやとのん。人べく。あるとよかばうのも。

言　高　清少の方

見ざるほど。おもうるうせば。さてあるべの

清少の方

隠家の方

なるまきこゆべく。こはそあべいつべ事まして。

清少の方

清少の方

清少の方

月在(チニリ)海中(ニ)故名之

増賀上人の詞

[illegible]八十あまり九老の[illegible]海月のみなもとなるべし

自賛ゆゑ事多くなれば

[illegible]

一言

[illegible]

后宮の一言も落ちまじと侍る所也中宮在世の内まで侍る也

[illegible]

是又別の[illegible]

[illegible]

中宮への勅使也

藤原信經卿中納言兼補の曾孫(ヒマゴ)雅正が孫陸奥守高長の

子也勘物云信經長徳元年四月十一日藏人三年正月二

武部丞(ノセウ)

菊

[illegible]

甚上三不居ヲ[illegible]也

清少の詞

[illegible]

菊よりもなほ[illegible]

清少の秀句[illegible]詞也

[illegible]

科[illegible]

[illegible]

經の[illegible]

清少[illegible]

[illegible]

[illegible]

右丞相師浦　女子　中宮従三位安子母同　兼家　邦綱女

村上后　冷泉　円融　母后天慶三年四月廿八日　為　天徳二年

十月廿七日　為　和四　廿九日　冷泉　賜　皇太后又重　皇太后宮

みのうえ　てうせうもんいんのはつこの　ゑいん　なりたまふ。

御物　の柄　康保五年二月廿八日　義清　元　兵庫　頭　東宮

大進　天延二年六月　摂津守　従四位下　長徳二年五月二日

親人　兵部少輔　改補　作物　所別当

ふもの　ばかりとも　ある　かな。　ばかりの　ほど　や

名　めつらしく　形　さま　みめ　の　心　や

めつらしき　ものの　ゑ　事　よ。　名　よせての　秀句　や

わざと　おもしろき　ふし　なし　ものも　ゑ　事　よ　めつらしき　名　の　ある　や

なん　ぐつ　ふる　ふり　ある　ものも　いろ　ぐろ　ある　や　拙　や

さて　ものの　ゑ　事　よ　の　さま　ふる　ふ。　まさ　さる　ふる　ふ　ものも　語　て　ら　ふ

ゑ　事　の　ふる　ふ　ものも　ある　ゑ　事　よ　の　さま　ふる　ふ。　世　論　の　句　や

すべて　題　出　ふる　ん。　詩　も　ふ　事　や

なし。　ふる　ぐ　ぶい　ものも　ん　ふ　み　ふ　ふ　と　い　ふ。　ばかり　の　詞　や

せむ。　ふ　ば　ふ　ふ　ものも　ある　ふ　ふ　ふ

造物奉の用ま

あはがりとふやりけるまゐんのくたやう屋のくらにはがやうりり

うりとつくべしと。ちうろまんなりやう。真字 ふ績れあるき事や もれせまとてひやしさ絵入御

くて。ちはがうくうくよ。ちはがまくよはうとつくくらやうまこてある 清サのさし詞や 清のの

ぐくくくく。反上よやうくはがぐくくくとりてんつるいとうりうくひくくる。

はりくくよはくくりてくくうみし。 立版や 是ちう又別紙也 三条の院ろう也

波京今東宮よ系紙ろのるるぐ。いでうのめぐめでくくぬこと形し。 句

四月十日よ系紙して。定家卿 宮ぬはくくよはあまをあぐ。たげうくよんぐ

ちくいんるんるくくる紙。二月十日。家居れこうの 后宮へたげいまの

うくくわはぐはねよくはたくくひうくよみぐさはくくひ宮房 二月九十日の 絵 家記

なぐくも。くるはくくしくくよくるはくはくくはくくくくくくも

夜の

なくてわけぬ。とうくいんのひぐ〜はれくるあるはたくくひくくくる。

勘物云 信経記云二月十八日渡御登花殿御掃部寮設

遣道午刻御船 船 未刻渡御頭中将義信朝臣指御剱

於南書有伝宣酒事申刻還御

風の字也十三日第二 はくめ宮ゆくはかうし系わくてあくくくる夜うく

上八中の関白殿少方宮内伯也号貴子 従同三日乱舞とりあ也

同車 職の伝貴子 ひくつはは車よて系紙ひくくる。宮ちくはくはくくくくくく

紅葉。まさいつ（清少の名）積善寺供養の日。

栄花　ゆくてぬ夢の果てる　折敷あのぼ（土二ミ）無院のうち。別ふ法堂あてさせ

給ひて積善寺に出つけさせ給ひて。その法堂供養いとゞ

ゆゑ紅葉。

ゆゑの　ゆゑ紅わげ　なれ　きこゆ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ

わ　ゆ　ゆ　ゆ

ぬさ。紅の袴ども。御ひとも所ども。ぴちのぱらりうしろ結あて。
情少の好ぐ方へ
こるのさざ面てしさてたはまぬめでてさはけりさ面ども張うち
道隆の
ちみてきいれさりれぐ張せさ分紅。
行幸の正しき躰や
うてしげてねさせ紅面てしさをやすてふい面ほてしおてるびさ
分紅面所はさ事しまの。おれはぐてりあ白ひあいせ紅ひて。行あぐひてい
ぐてうれみてはせのよ。はてれ水事面。のはてさぐせんようぐん貞記及
張とをてく。

宣耀殿 麗景殿北 七間四面 貞觀殿 常寧殿北 俗曰御匠殿在是殿

てはあてふ。ちをばくはんしぐ面。て家はめ。てうびたしのこてるの廊
登花殿こてるこてれ世房はてれば
てぐ。世房ち人ばてはさてふ。世はあてして。てる面ちてる。

横ちのうざみもてぎ和横ぐぐ。ぐてぐみてるぐ長きものや引てちりけ
下仕おれのもて著ものを世房ち人ちるや
面てうするかはてる面めて。れてるめてりてきめどてこてるぐいぐすけ面さ
のむりれちみのむすめ。おれの君。小野の宮の三位のむすめ。宰相のちみてるぐぐ

菅原輔正勘解由長官在躬一男現神北野殿是也正暦三
年二月十五日叙三位 公卿補任
近習公卿
ちてくてあてるかてのれてとてる面ちてふ。こてるこのはる水ちる。番の采女の
手水の采女
梦秘抄云陪膳采女弘事也。氏澍丞云。雲蔵無極也。てるこ
沈沈事也。陪膳采女典侍御之意和俗也
青赤濃 宋女の衣装や
書すてるこて。ぐてうこさぬ。ちんこいひれるぐ。して
和名 裙裳 裙帯同 皆る 和名形如半臂無腰襴之裕衣也

眉たはらく所躰や
たゝてのびいたゝらくてぱぱ
公淵やうこ
あらやけしうらめいてれ。おものくをりよ成てみらあげ奉て
どゝ（略 仮名の心や）まるるひしりみあげて系るするほどよ
あけつたぐらいあるこのくに屏風とたゝ
みすと木すれ中よてぱらのもとまで見をあるしど
きこ。ふみひのそりをーむさたくまば。所のはのうちはらん
清少の枕をたたけ給りし　もれ所さぬのうち
ド出りて。うちかするの面よりの見ゆるはぱどめさ紙ゆり
（道隆との句や）
古を書しが方の紙や
（右文の句や）
お紙言がまのゆーどて行るのんとト芭紙ぐあるけつーたれを
山掘かすこのまるかのうるもぱそ人を高られ
（関白殿の句）

得意のあるを所や　見るこ
あ所者とくいれ。ぱてまくけるあ所むすんどゝ。らうとゝあるて
（右文をたるさまを見れ系所や）
乃行しるぐの系。ぱ今きいてもちぐらいなるあるうもおもの系所
（むすを塚自傷し紙や）
関白の句や
うゝやまーうゝくぐのそうれ系ぬ。く関ーめくれさあ所
（物系言や）
庭の
おろーをうる紙へるぐ。あぐりひるさ所ろうる和ーぬるぐ。大納
（ざれ言や）
言殿。三位の中将。松君をあぐくと系紙ぐ。

大納言伊周公　道隆子母高二位業忠女長徳二年四月廿四坐事左遷
大宰才帥同三年四月五日京寛七正廿八薨廿七

三位中将　信乃寺長徒四年二月廿四左遷出雲国有年被召還大宰帥
大蔵卿左兵衛才尉皇后宮今正二位才中ー母同伊周公長
久五年正月百薨号大炊帥

松君　伊周公の男左京左丈道雅のわく名や。栄也ぶぐ世天也ぬ左納言
反を光の姫ざみいらぐうてきわる天うみ紙ぐぐそく女ぐ搦
取ぐの紙ぐいうぐきのよもてーぐあるぱ。松ぐうみぐぐきこゆる

関白殿

殿いはせたまひてこそさらに紀ぬべけれ

松若殿道隆の孫也

たんなり。西せさいめれたりぐの

たちくしき殿也　昼の装束

納言殿も。めくとうきよげ。中将殿もいとらうくしもぞ

めでさきぬんを所なり。殿をばさ

なまめかしく　光高内侍　宣旨

あるし。たちうめのあるじ　円坐　せがまちんを伊周公隆之家卿まち所に

いそぐさうらいぬ。ぞばーあり

所脇をくしや

来たりぐ。おのやられきてうよ

御邸の西北の方居所間也

すーてり。ちかみのもし

ハとく出せ給ひけ。まさをとりれ

三条の院ちかのうちの　道隆の子中宮定子兄弟也　但本の所也　有名三位

ぬ。ぐり。まちのれはい周東

御下也

よのて。ちくさうんなりぐ。

登花殿也

ちのうのえんよ。とねたーいでる

道隆　后宮　一条院也

清文とらのたくく殿

うの形ぐ

こびらの言

ぐくとみもきてし行ぬ残。

園殿の殿也　早速

ぬ折たや

ぬ行ぬ。まもるくこ行ぐで園

ぬ行ぐ　さまあり。

叔景舎の

すーあみなぐすらうえみ行所いとめでしぐ行ぐ

中宮

出家也

うえも園行ぐ。行ぐさ所もむ　ちぐいまの躰やこちぐ所宮也

ちくせ行ぶうつちくとちのしく。

もちもちせもの行ぐ。ぐつまーげや　園東の孫也　琴くし行也

小桂

のれりあくこちらぐぱ所をーぐくまぐ。三位の中将つげ

使の桂を詳しこと也

行ぶ所ぐよおもいてこちぬ。松若の行ぐうのれとまふとそ行ぐく

ちぐいまの躰也

うつぐの園行ぶ。文の所ちのうち　園殿の四也　后宮の宮

引出ちくしもり。やちく行ぐーぐ

宮今まで中宮それ産ちぐこの四や

のちまちるのぞ。ぞりちるのさ。ひつーの

叔景舎の殿の四のぱ

道頼公也。后宮伊周公別腹の兄弟也。山井どのの三男にて門
の上。京極の西の方より。拾弟おるみてぬ。家を大事思ふあり。
帝の御直衣也
さてのちの御ゆるしなくしてかくのごとくしかるべし。

后宮の御一腹の兄弟にて御ましまし
伊周公也
なれども世をうとましくもいとよくおはしけり。
塔の上の人也
伊周公より
宮のうへを面白く行ひ給ふの紙。世の人をやらるいとおもしきこゆるこそ
いとをかしけれ。后。大納言。山の井の大納言。三位の中将。内蔵のみなもと
内蔵紀道隆公也。兼家の兄弟也。藤原系図にあり
内蔵紀道隆公也。兼家の兄弟也。藤原系図にあり
ましまさるに行ふ。宮のうへ行ひのべ給ふ。むかしの内侍のすけ。
馬門侍大和守馬。拉法時明女。尼院。宮原宮女　作者紫式部
従五位下。伊賀守方基。前阿波守正弘。なりの兄弟也
后宮今夜ここの御ぐせ行ハ給ハ
ぬるにて明ぬれば。
のぼりたまへりとて。
なりぬ。いとさはぐ。
東宮の御乳母女房
侍従なども来あり。

喫の字

はぐの一関ゆ。面づさぐ。の恋わう関紗ひくとのこまハすがた。

（後京極の詞先ぢぐ）（飛鳥井雅経卿）

（後京極の詞）

（飛鳥井雅経卿）

（後京極の詞）

（飛鳥井雅経卿）

（後京極の詞）

清忠卿 上句

[illegible]

清少納言の句ニ云ふ所の[illegible]

[illegible]

[illegible]